



【新幹線定期報告】

令和3年10月14日
新幹線事業対策室

1. 概況 (西九州新幹線(長崎～武雄温泉)の進捗)

令和3年9月末時点での工事進捗および用地進捗状況は下記のとおりとなっている。

○工事進捗状況(長崎～武雄温泉) (R3.9月末時点)

区分	進捗状況		
土木工事	工事延長 67.0km (長崎県 49.2km、佐賀県 17.8km) ・本線土木工事は、R2.9.23 をもって完成率が100%となった ・土木の付帯工事は、引続き実施中 ・長崎県内の主要な土木工事 40 工事中 33 工事が竣工 (R3.10.14 時点) ※残り 7 工事は令和 4 年 5 月頃までに竣工予定		
建築工事	駅舎工事	新大村駅	一部の工事を残しほぼ完成 (令和 4 年 3 月頃に竣工予定)
		諫早駅	一部の工事を残しほぼ完成 (令和 4 年 3 月頃に竣工予定)
		長崎駅	外観がほぼ完成し、内装などを施工中 (令和 4 年 3 月頃まで工事がかかる見込み)
軌道工事	レール敷設はルート全体で約 64km、約 96%が完了 長崎県内では約 47km、約 94%が完了 (レール敷設は完了し、一部区間で高さなどの最終調整を実施中) ※脱線防止ガードの設置を除き、レール敷設は令和 4 年 3 月頃までに完了予定 ※脱線防止ガードの設置は、令和 4 年 3 月頃までに鉄道・運輸機構で全体の 4 割強 (約 30km) を行い、残りは開業後に JR 九州で行われる予定		
電気工事	電車にパンタグラフを通して電気を供給する架線 (トロリ線) や、行先や発車時刻などの情報を表示する案内表示装置 (発車標)、駅構内の無線・監視カメラなどを施工中 (ルート全体の電気工事進捗率は約 83%) 各駅にある配電所について、10 月中旬に国による完成検査が行われ、合格すれば 12 月頃から受電を開始し、その後、駅舎の昇降設備の試運転や本線上にある電気設備 (照明灯や沿線情報の計測器機) の動作確認などが行われる予定 ※各電気工事は令和 4 年 8 月頃までに竣工予定		
機械工事	駅舎の可動式ホーム柵について、諫早駅と長崎駅は工場製作中で、新大村駅は設置が概ね完了 また、出改札機についても製作に着手し、年度内に設置の予定 ※各機械工事 (大村車両基地を除く) は令和 4 年 3 月頃までに竣工予定		
大村車両基地	造成工事が完了しており、基地内の建物の建築工事も実施中 レール敷設工事や電気工事 (屋内外照明設備など)、機械工事 (塗装設備の設置や設置した機械の試運転調整など) も順次実施中 ※各種工事は令和 4 年 9 月頃までに竣工予定		

※竣工予定時期は、鉄道・運輸機構への聞き取り、またはとりまとめ時点での契約工期の工期末月を示したものであり、今後変更の可能性がある。

※鉄道・運輸機構からの情報をもとに、当室にて整理したものである。

※土木工事の完成については、トンネルは覆工完了、高架橋・橋りょうはスラブコンクリート完了、路盤は施工基面完了をもって、完成と整理されている。

※軌道工事の完成率は、高さなどの最終調整まで完了した率を示している。

※電気工事の完成率は、設備の設置が完了した率を示しているが、最終的には諸試験の合格をもって、工事完了となる※前回からの更新箇所を朱書きとしている。

○用地取得実績（長崎県内）（R3.9月末時点）

長崎県全体	東彼杵町	大村市	諫早市	長崎市	全体
取得予定面積 （地上権設定含む）	7.7 ha	33.9 ha	18.9 ha	10.3 ha	70.8 ha
取得済面積 （地上権設定含む）	7.7 ha	33.7 ha	18.9 ha	10.1 ha	70.4 ha
進捗率	100%	99%	100%	98%	99%

※鉄道・運輸機構からの情報をもとに、当室にて整理したものであり、四捨五入により計が合わない場合がある。
 ※買収予定面積は、用地丈量、設計、協議の進捗に伴い変更を行う。
 ※前回からの更新箇所を朱書きとしている。

2. 入札公告・結果

令和3年9月15日から10月13日までに、工事1件（長崎県1件）、委託2件（長崎県1件、両県にまたがるもの1件）の入札公告が行われた。

また、委託4件（長崎県2件、佐賀県1件、両県にまたがるもの1件）の入札が行われた。

入札公告が行われた長崎県に係る工事は、以下のとおり。

<入札公告>

- 工 事 名：九州新幹線（西九州）、57k8・61k7 間減濁水対策設備
- ・公 告 日：R3.9.29 ・入札予定日：R3.10.29
- ・工 期：11 箇月 ・工事場所：長崎市
- ・工事概要：57km779m～61km720m（延長 3,941m）間の新長崎トンネルの掘削に起因し発生した濁水の恒久対策を行うもので、送水管の布設等を行う工事。

3. 環境対策

西九州新幹線の建設は、高架橋やトンネルが完成し、レールの敷設もほとんど終了するなど令和4年秋の開業へ向けて着実に進められています。

今後は、実際に開業後に走る車両の走行試験なども始まり、開業後の姿がより鮮明になるとともに、期待も膨らんでくるものと思います。

その一方で、沿線では新幹線の開通に伴うさまざまな住環境の変化が想定されます。

実際に住環境に変化が生じ、対応が必要と判断された場合には、解消・軽減するための工事や補償などを関係するルールに則り行うこととなります。

これらの環境対策は、鉄道・運輸機構 九州新幹線建設局 環境対策課が中心となって対応していきます。

住環境の変化として想定されるものには、まず、音や振動があります。

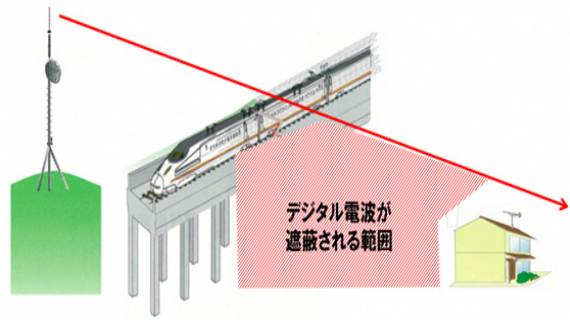
車両の走行などにより発生が想定される音や振動については、これまでの知見を基に建設の段階から様々な対策がとられています。

しかしながら、実際に車両が走行すると、想定以上の音や振動が発生することも考えられるので、新幹線の走行開始に合わせて、音や振動の調査を行います。

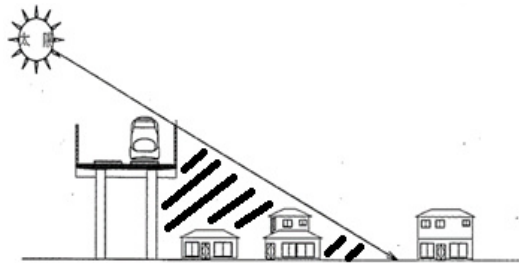
その後、対応が必要と判断された場合、対策工事や住宅の防音工事に要する費用の助成などが行われます。

そのほか、高架橋や施設の建設によりテレビ電波の受信状況が悪くなり、受信障害が起こることも考えられます。

現在は、電波の受信状況の調査などが行われており、対応が必要と判断された場合、対策工事や補償などが行われます。



提供：JRTT 鉄道・運輸機構



提供：JRTT 鉄道・運輸機構

また、新幹線の高架橋や施設により住居や耕作地が日陰になってしまうこともあります。

こちらは、今年度で事前調査が終了する予定で、以降、対応が必要と判断された場合には、補償業務に移って行きます。

環境の変化は、新幹線の走行後に新たに発生したり、走行時の状況を見ながら対策したりすることが考えられることから、新幹線開業後も一定期間、環境対策が行われていくこととなります。

【参考】開業シンポジウムでの新幹線工事のパネル掲示

令和3年10月9日に、諫早文化会館にて長崎県民を対象とした「西九州新幹線開業シンポジウム」が開催され、令和4年秋頃の開業まであと1年と迫るなか、終盤を迎えている新幹線工事の様子を来場者の皆さまに知っていただくため、現地のビフォーアフターや施工状況写真をパネルにして会場内に掲示した。（パネルの一部を以下に掲載。）

なお、掲示した全てのパネルは、当室のホームページ（以下アドレス）に掲載していますので、ぜひご覧下さい。

< <https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2021/10/1634703978.pdf> >

（長崎県ホームページ>組織で探す>土木部 新幹線事業対策室>新幹線工事ニュース>イベント実施報告）

